

Point… SUBTOTAL 関数の集計範囲

開始位置 1 回目…「D2」 2 回目以降…「B 列」に「小計」を含む行の 1 行下

終了位置 「B 列」に「小計」を含む行の 1 行上

開始行と終了行が変動しますので、それぞれの変数を準備します。

オブジェクト型変数を利用する場合

開始セル 1 回目の集計 Set startcell = Range ("D2")

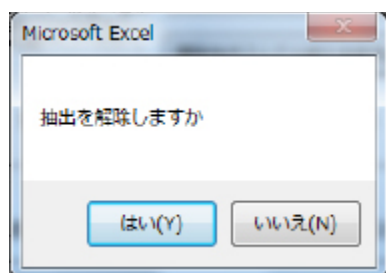
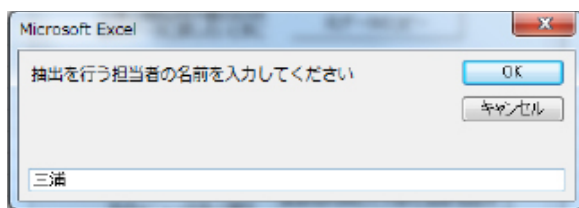
2 回目以降の集計 Set startcell = Cells (i,4) .Offset (1)

終了セル Set endcell = Cells (i,4) .Offset (-1)

合計は集計をする先頭セルから終端セルを引数とします。

合計セル "=subtotal (9, & startcell.Address & "," & endcell.Address & ")"

- インプットボックス関数を表示して、入力された担当者名で抽出します。

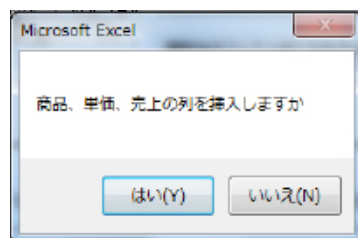


- HINT-「集計行があれば集計を解除し、商品名と単価を別シートから返し、売上を計算」ボタンをクリックしたときの処理

- 「小計」行があれば削除し、「合計」行の計算結果は空白にします。

- [商品 CD] シートから「商品 CD」に対応する商品名と単価を照合し、[数量集計] シートにいれ、[売上] の列を作成します。

- ① 下記のメッセージを表示します。



- ② 「商品 CD」シートがなければ処理を中止します。また、「E1」に「商品名」と入力されていない場合は、「E1」「F1」「G1」に「商品名」「単価」「売上」とそれぞれ入力します。
- ③ 「数量集計」シートの「C 列」と「商品 CD」シートの「A 列」の「商品 CD」が等しければ、対応する商品名と単価を [数量集計] シートへ入力します。「売上」の列には「単価」*「数量」の計算式を入れます。

Point

▶Address プロパティ

セルやセル範囲のアドレスを文字列で返します。下記では「\$A\$1」の文字列が返ります。

記述例

```
Range ("A1") .Select  
ActiveCell.Address
```

Memo

InputBoxには担当者名を入力しますが、その担当者の小計行も表示されるようにします。抽出条件にはワイルドカード「*」が必要です。

Memo

シートを利用する場合は、そのプロシージャで利用するシートの存在チェックはどのプロシージャでも行う方が良いでしょう。

Point

▶Formula プロパティ

数式をあらわすプロパティです。

- セルに数式を入力する。
先頭が「=」で始まる文字列は、Excelが数式と認識します。

記述例

```
"=SUM (A1:A2) "
```

数式にCells プロパティを使う場合は、Address プロパティを利用してセル番地に変換します。Address プロパティの引数を (0,0) とすると、相対参照のセル番地が返ります。Cells プロパティは単一のセルを扱う時に使います。

記述例

```
"=" & Cells (i,2) .  
Address (0,0) & "*" &  
& Cells (i,3) .Address (0,0)
```

- セルに入力されている数式を取得する。

記述例

```
Range ("A3") .Formula
```

▶ 実行結果

	A	B	C	D	E	F	G
1	日付	担当者	商品CD	数量	商品名	単価	売上
2	2015/5/24	遠藤	001	6,199	チョコシフォ	280	1735720
3	2015/6/26	遠藤	001	2,428	チョコシフォ	280	679840
4	2015/5/9	遠藤	003	6,740	カスタードマ	220	1482800
5	2015/6/8	遠藤	003	8,137	カスタードマ	220	1790140
6	2015/5/7	遠藤	004	5,750	苺ショートケ	310	1782500
7	2015/5/26	遠藤	004	4,912	苺ショートケ	310	1522720
8	2015/6/2	釜本	001	9,696	チョコシフォ	280	2714880
9	2015/5/26	釜本	002	8,901	バナナタルト	320	2848320
10	2015/6/2	釜本	002	8,972	バナナタルト	320	2871040
11	2015/5/23	釜本	003	8,324	カスタードマ	220	1831280

■ 書式を整えます。

- ① 1行目「E列」から「G列」の書式を他の列とあわせませす。
- ② 「G列」の表示形式を完成例のようにし、「E列」から「G列」の列幅を自動調整します。
- ③ 全体を細線、周囲の枠線を太線で、罫線を整えます。
(Function プロシージャで作成しておく他プロシージャでも利用できる)ので便利です)

	A	B	C	D	E	F	G
1	日付	担当者	商品CD	数量	商品名	単価	売上
2	2015/5/24	遠藤	001	6,199	チョコシフォン	280	¥1,735,720
3	2015/6/26	遠藤	001	2,428	チョコシフォン	280	¥679,840
4	2015/5/9	遠藤	003	6,740	カスタードマロン	220	¥1,482,800
5	2015/6/8	遠藤	003	8,137	カスタードマロン	220	¥1,790,140
6	2015/5/7	遠藤	004	5,750	苺ショートケーキ	310	¥1,782,500
7	2015/5/26	遠藤	004	4,912	苺ショートケーキ	310	¥1,522,720
8	2015/6/2	釜本	001	9,696	チョコシフォン	280	¥2,714,880
9	2015/5/26	釜本	002	8,901	バナナタルト	320	¥2,848,320
10	2015/6/2	釜本	002	8,972	バナナタルト	320	¥2,871,040
11	2015/5/23	釜本	003	8,324	カスタードマロン	220	¥1,831,280

■ HINT-「集計行があれば集計を解除し、「追加」という名前がつくシートのデータを最終行に取り込む」ボタンをクリックしたときの処理

■ 「追加」のデータを「数量集計」シートにコピーします。

- ① 「数量集計」シートがなければ処理を中止します。
- ② 集計行があれば行を削除します。
- ③ 「追加」という名前のつくシートがあれば、そのシートの行数と列数をかぞえ、変数に代入します。
- ④ 上書きされないように、コピーする行数分あらかじめ行を挿入しておきます。

50	2015/5/13	三浦	004	5,211
51	2015/6/23	三浦	004	5,056
52				
53				
54				
55				
56				
57				
58				
59	合計			

- ⑤ データをコピーします。
- ⑥ 罫線を整えます。

Point

▶ NumberFormatLocal プロパティと NumberFormat プロパティの違い

- 「¥」の指定方法
「¥10,000」は NumberFormatLocal では「"¥#,##0"」と指定します。NumberFormat では「¥」記号は「(」で囲み、「"¥""#,##0"」と指定します。
- 色の指定方法
数値に桁区切りスタイル (,) を表示し、マイナスの場合に文字の色を赤にする書式は、NumberFormatLocal では「"#,##0; [赤]-#,##0"」と指定します。NumberFormat では色をアルファベットで「[Red]」と指定します。
- G/標準の指定方法
NumberFormatLocal の場合は「"G/標準"」と指定します。NumberFormat では「"General"」と指定します。

Point

▶ Insert メソッド

セル/行/列を挿入するメソッドです。Range オブジェクト.Insert _ (Shift, CopyOrigin)
Range オブジェクトで挿入する位置を指定します。引数 Shift では挿入後、セル/行/列を移動する方向を指定します。

挿入する位置は、「数量集計」シートの最終行から、「数量集計」シートの最終行+「xx追加」シートの行数-2 になります。「-2」は「数量集計」シートの合計行と「xx追加」シートの1行目です。

記述例

```
.Range (.Cells (Irow2,1) , _
.Cells(Irow2+IRow-2,Icol2) ) _
.InsertxlDown
```